

温故創生館特別展示 兵馬俑と銅車馬



秦の始皇帝（紀元前二四六年〜二一〇年）の陵墓近郊から発掘された兵馬俑と銅車馬の
実寸大レプリカを展示

●お問い合わせ

熊本県立装飾古墳館分館
歴史公園鞠智城・温故創生館
〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1
TEL.0968-48-3178 FAX.0968-48-3697

ごあいさつ

平成9年度の鞠智城発掘調査で、貯水池跡から『秦人恐口五斗』と墨書きされた木簡（荷札）が出土しました。この発見により鞠智城周辺において「秦」姓を名乗る渡来系の氏族・秦氏が存在が明るみになったことは記憶に新しいところです。

この度温故創生館では、熊本華僑総会 会長 林 康治氏の多大なる御支援により、秦氏が始祖に求めた秦の始皇帝陵墓近郊から出土した兵馬俑と銅車馬の実寸大レプリカを展示することになりました。

いずれも中国で出土品を忠実に再現した逸品です。約2200年前の歴史の重みと優れた造形の美を心ゆくまで御堪能ください。

熊本県立歴史公園鞠智城・温故創生館長



墨文
「秦人恐口五斗」

貯水池跡から出土の木簡



秦の始皇帝陵兵馬俑博物館での展示状況



2号銅車馬出土状況

出典文献『秦始皇帝の兵馬俑』人民中国雑誌社1983



兵馬俑（複製）

兵馬俑

秦の始皇帝陵より東へ約1.5km離れた地点に兵馬俑坑があります。1974年、井戸を掘っていた地元農民が、偶然その一部を見つけたものでしたが、大規模な発掘調査により、秦の始皇帝の軍隊がそのままの形で埋葬されていることがわかり、世界有数の重要遺跡であることが判明しました。兵馬俑とは、陶製の兵士や馬のことをいい、発掘調査の結果、3つの坑で総数8000体におよぶ兵馬俑が見つかりました。兵士俑の平均身長は約180cmと大きく、顔の表情や服装はそれぞれ異なり、非常に手の込んだ造りとなっています。一部に彩色が残っている俑も見られます。

銅車馬

1980年11月、秦の始皇帝陵の西側20mの地表下7.8mのところから、学術調査で2台の青銅製の馬車が発見されました。数千の破片に壊れていましたが、8年かけて復元したところ、それぞれ4頭立の馬車で、秦の時代の実用車の2分の1サイズで造られている事がわかりました。1号車には先導車で武装した兵士が乗り、2号車が秦の始皇帝の専用車となります。

2号車は、始皇帝が乗るのに相応しく、車体には赤、緑、青、白、黒の彩りで美しい文様が描かれており、前面には御者が配されています。「温涼車」とも呼ばれ、車内の空気を調節するための小さな穴を開けた窓が設置されています。温故創生館では2号車の複製品を展示しています。



2号銅車馬（複製）（全長：3.17m 高さ：160cm 総重量：1000kg）

（撮影：前田 一誠）

この電子書籍は、兵馬俑と銅車馬 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版は発掘調査報告等、他の書籍から引用してください。

鞠智城跡の発掘調査報告は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：兵馬俑と銅車馬

温故創生館特別展示

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2024年9月15日